

韓国・朝鮮語教育の現状と学習者の意識に関する調査研究

愛知県所在教育機関の日本人および
在日韓国・朝鮮人学習者を対象として

金 由那

1. はじめに

日本における韓国・朝鮮語教育は、在日韓国・朝鮮人を対象とする民族教育・母語教育としての教育と、日本人を対象とする外国語教育としての教育とに分けられる(以下、本稿では在日韓国・朝鮮人は「在日韓国人」、韓国・朝鮮語は「韓国語」という呼称に統一する)。従来、日本での韓国語教育に関する研究は、この両者を別個に扱ってきた。しかし、在日韓国人の定着100年近くになる今日、両者を区別し難い状況が生じている。在日一世にとって韓国語は明らかに母語、第一言語であるけれども、二世、三世、四世と世代を追うごとに韓国語・韓国文化との接触の機会も減り、韓国語の能力の低下していく状況にある。在日二世以降は、普通、日本人と同様の学校教育を受け、教育環境が日本人と変わらなくなるにつれて韓国語が話せなくなっている。それゆえ、在日二世以降においては、母語¹としての韓国語を喪失し日本人と同様に外国語としてそれを学習するようになったのである。

Fishman(1980)によれば、安定したダイグロシアが形成されている社会では、二つの言語が独自の機能を持ち、使用されるべき領域で使用され、両言語は厳密に使い分けられるという。しかしながら、一方の言語使用域においても他方の言

¹ 本稿でいう母語とは、生まれ育った言語生活環境の言語、幼時に母親などから自然な状態で習得する言語と定義する。在日韓国人の場合、日本語を使う環境に生まれ育つので日本語が母語になる。一方、母国語とは国家意識が加わった概念であり、先祖のことは、継承語、民族語を意味するものと定義する。在日韓国人にとって母国語は韓国語ということになる。

金 由那

語が使われるようになり、言語の使い分けが不安定になるとダイグロシアの状態は崩壊する。結果として、どちらかの言語が脅かされ、他方の言語のみが社会の中で使用されることになるのである。実際に少数派言語の言語使用域で多数派言語が使われだすと、少数派言語から多数派言語への言語移行が生じていることが報告されている(Gal(1979))。

本稿では、日本における韓国語教育の将来を展望するために、先行研究をもとに在日韓国人に対する韓国語教育に関する先行研究の成果と韓国語教育の現状を簡単に考察し、日本人、在日韓国人を含めた韓国語学習者の意識を探るために行ったアンケート調査の結果を報告する。調査は愛知県所在の民族団体が開催する韓国語講座、文化センターの韓国語講座、大学の韓国語授業などで学ぶ韓国語学習者を対象として行った。

2. 日本における韓国語教育の現況

日本における韓国語は、長く深い交流の歴史を持つ隣国の言葉でありながら朝鮮民族に対する差別意識と無関心から、長期にわたって不当に冷遇されたとの印象をぬぐい難い。それゆえ日本で長い間韓国語教育を担ってきたのは、主として在日韓国人の民族団体や民族学校であった。しかし、近年、日本と韓国の交流が活発化するにつれ、日本における学校教育においても韓国語の教育の機会が増加した。財団法人国際文化フォーラム²の1999年の調査によれば、韓国語科目が設置されている日本の大学は約400校、短期大学は約100校に上ると推計している。これは日本の大学・短大総数(686校、541校)のそれぞれ約6割、約2割にあたる数字であり、今日、大学での言語文化科目として、韓国語が定着していると言えるだろう。学校教育機関における韓国語教育に関する研究も盛んに行われており、歴史と現況調査(生越(1994))³を始め、韓国語科目の設置状況、運用過程、実態と問題点などに関して多数の調査報告がなされている(金(1988)、大江(1991)、呉(2001)、

² 講談社など6つの企業が1987年に設立した民間の事業型財団で『日本の高等学校における韓国・朝鮮語 中国語教育との比較で見る』(1999年)などの報告書を発行している。

³ 生越直樹(1994)ら1993年から1994年にかけて日本においての Korean language 教育の実態調査をした。現在の教育機関の大学、中学・高校、その他(一般社会の対象にする教育が行われる講習講座など)に分けて、教育機関の数と授業の特徴を報告した。

藤永(2003)など。

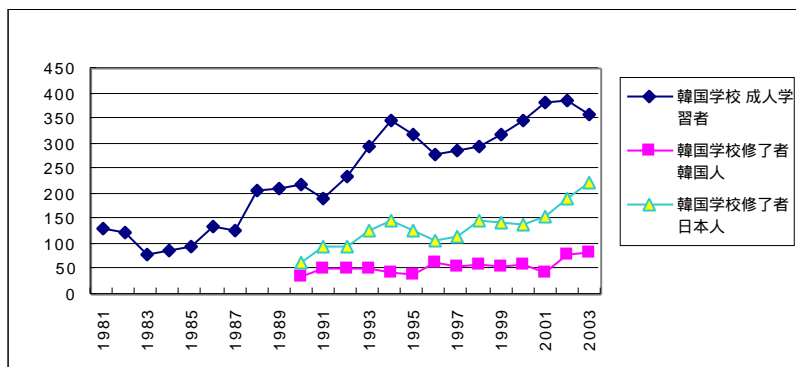
学校教育以外でも韓国語を取り巻く社会情勢が変わってきている。1984年にNHKテレビ・ラジオでハングル講座が開始され、現在まで20年間放送は続けられている。一般社会の韓国語教習講座は文化センターなどで取りあげているばかりでなく、小規模の同好会などの形で全国各地で行われているのでその実態はつかみにくい。しかし、現在の韓国熱から判断すると、学習の場所がどこであるかを問わず、韓国語学習者の数は今後も増加するものと予測される。

民族団体による民族教育としての韓国語教育の場合、戦後まもなく韓国語学習のための学校が多数作られ、1946年には日本全国で525校の韓国人学校があった(Mitchell(1967:113))。しかし、文部省が韓国語による教育を禁止したために、そうした在日韓国人の教育機関と学習者の数は減っていった。在日韓国人子女の就学状況についてみると、1988年の調査によれば、在日韓国人約68万人のうち、学期にある子女数は約164,000人であるが、そのうち86.4%が日本の国・公・私立学校に通っており、残り13.6%が在日韓国人が運営する「民族学校」に通っている。民族学校に通う在日韓国人約22,000人のうち、92.2%は在日本朝鮮人総联合会系(総聯系)の学校に、残り7.8%が在日本大韓民国居留民団系(民団系)の学校に在籍している。全体的な傾向として、年々日本の学校に在籍する者の数が増えており、民族学校の在籍者は、総聯系、民団系のいずれにおいても減少しつつある(馬越(1989))。

一例として、愛知県名古屋市所在の名古屋韓国学校(民団傘下の成人向け民族学校)の履修者の数の変化を国籍別に表したのが図1である。全体的な学習者は増加しつつあるが、民族学校にもかかわらず、日本人の数が在日韓国人の数を上回っている。

金 由那

図1 学習者の推移



* 図1は名古屋韓国学校の卒業台帳を参考に稿者が整理した。

3. 在日韓国人の言語使用状況に関する先行研究

3.1 意識調査

在日韓国人の言語使用に関する研究方法として、アンケートによる意識調査がある。在日韓国人の言語生活についての本格的な研究は生越(1983)に始まる。生越は、在日韓国人の言語生活の実態を知るために、京阪神に生活する成人や子供を中心として、日常生活での韓国語の使用、話し相手に対する韓国語の使用、状況による韓国語の使用などの項目についてアンケート調査を実施し、次のような結論を導き出している。日常生活で、特に日本生まれの人やその家庭においては、韓国語はあまり使われない。日本生まれの人は、祖国生まれの人に比べて韓国語の使用率が低い。韓国語が生活中心の言葉から社交上のことばへと変化しつつある。

これらの結論から生越は、在日韓国人コミュニティにおけるモノリンガル化現象を指摘し、在日韓国人に対する根強い偏見・差別、民族学校への日本政府の政策と民族学校に通う子供たちの減少、親たちの置かれてきた劣悪な環境から起因する民族語維持への無関心、韓国語習得における経済的な側面などのマジョリティ社会のマイノリティに対する政策、などの社会的要因がモノリンガル化の要因で

あると指摘している。

生越の問題意識と方法論をさらに発展させた研究として任(1993)がある。任は「在日・在米韓国人及び韓国人の言語生活の実態」を比較対照する方法を採用し、日本のような単一民族・単一言語社会とアメリカのような多民族・多言語社会の中でのマイノリティの言語運用の違いに光を当てて、二言語使用の意識構造やその現れを、彼らを取り巻くさまざまな環境やアイデンティティなどと関連づけて考察を行った。

このようなアンケート調査による方法は、言語集団の全体的傾向を把握するにはきわめて有効である。しかし、言語使用の実態をより詳細に把握するためには具体的な言語使用の資料に基づく分析・考察が必要であることが指摘された(黄(1994))。

3.2 実態調査

日本における少数民族としての在日韓国人の言語運用を両言語の併用状況から探る方法として、場面による両言語の使い分けと世帯における言語取替えについて多数のインフォーマントを対象に談話形式の調査を行い、その回答内容の分析から実態の解明を試みる方法がある。アンケート方式による調査が在日韓国人全体の言語生活の実態を知るためのものであるとすれば、談話資料をデータとする調査は個人の言語使用の実態を把握するためのものである。録音談話資料をデータとした研究の例として金(1998)がある。金は、大阪市生野区周辺に生活する在日韓国人1世を対象として、彼らの日本語運用の実態を音声・語法・語彙・混用の面に着目して談話調査を行い、そこに観察される母語の言語的・文化的干渉に起因する簡略化などを言語外的要因及び、社会的背景と関連づけ考察を行った。

このような先行研究は、言語学的なアプローチとしては、在日韓国人の日常の言語使用状況を調査するものが、社会学的なアプローチとしては、特に社会言語学的な言語意識や言語行動を調べるものが多かった。しかしそのほとんどにおいて、研究対象者が韓国語が母語話者である在日韓国人の調査研究が中心で、日本語が学習語の場合が多かった。しかしながら、前にも述べたように、現在では、日本生まれの在日二世以降は日本語が母語になっており、韓国語がむしろ学習語となっている。そこで本稿では、二世以降の在日韓国人を対象として韓国語学習

金 由那

に関わる意識の諸相を調査する。さらに、これを日本人の韓国語学習意識と比較することにより、両者間の相違点の分析を試みる。本稿の調査により、日本人と在日韓国人の韓国語学習者の傾向の違いを明らかにできれば、今後の韓国語教育や在日韓国人の韓国語能力の維持の問題に関して提言ができると考えられる。

4 . 学習者の意識

4.1 調査概要

学習者の意識については、韓国語の学習目的(動機)、ことばのイメージ、外国語意識、学習に対する意識(学習目標、学習経験、学習時の難しい点)、韓国に対する認知・関心・興味、韓国人と付き合う時に気を使っている点などを中心に調査と分析を行った。分析には SPSS for window 10.0J を使用し、国籍の差はt検定を行った。

調査は2003年10月から2004年3月までの期間に種々の韓国語教育機関で実施した。調査対象者は、愛知県所在名古屋韓国学校在校生(227名)、文化センターなどの韓国語講座受講生(127名)、N大学で一般教養外国語として韓国語を履修する学生(77名)、総聯系の団体で留学同の参会者(7名)で、計438名から回答を得た。回答者の国籍別構成は、日本人(334名)、在日韓国人(96名)、不明(8名)である。調査方法は匿名で、授業などの際に調査用紙を配布し、その場で回収した。本稿では、その一部である学習意識を中心に分析、考察する。

4.2 学習者の学習目的

日本における韓国語教育機関は、大きく学校教育機関、文化センターなどの講習講座、民族団体の運営する民族学校の三つのカテゴリーに分けられる。それぞれの機関の学習者の学習目的、動機を調べるために、予備調査として「あなたはどのように韓国語を勉強しますか」という質問をし、自由に書き出してもらった。この調査をもとに、多数の答えが出たことばを抜き出して21項目を作り、本調査の設問項目に作成した。質問はとてもそう思う(5点)、ある程度そう思う(4点)、どちらとも思わない(3点)、あまりそう思わない(2点)、まったくそう思わない(1

点)という5段階評価をしてもらった。表1は、各項目の機関別および全体の平均値である。また、図2はそれをグラフで示したものである。

表1 項目毎のグループ別平均値

番号	項目	大学	韓国	文化セ	全体
		77名	227名	127名	431名
1	韓国語に興味をもっているから	4.01	4.58	4.48	4.44
2	韓国の文化を理解するため	3.61	4.16	4.09	4.05
3	韓国が好きだから	3.71	4.37	4.22	4.20
4	おもしろそうだから	3.99	4.17	3.88	4.05
5	勉強に必要だから	2.65	3.01	2.87	2.92
6	先祖のことだから	1.60	2.23	2.02	2.10
7	学びやすいから	2.94	3.22	3.32	3.20
8	友達・恋人などとのコミュニケーションに必要だから	1.96	3.38	3.17	3.07
9	韓国旅行がもっと楽しめるように	3.81	4.49	4.35	4.31
10	韓国語が話せないため差別されたことがあるから	1.13	1.70	1.61	1.58
11	日本に一番近い国だから	3.57	3.50	3.71	3.56
12	歴史的にかかわりがあるから	3.14	3.33	3.28	3.29
13	文字がおもしろそうだから	2.99	3.12	3.18	3.09
14	仕事上に必要だから	1.48	2.09	1.89	1.93
15	韓国語が話せると格好いいから	2.94	3.14	2.82	2.99
16	英語以外の外国語が学びたいから	3.60	3.61	3.49	3.54
17	日本人の芸能人がしゃべるのを聞いてカッコいいと思 い自分もそうになりたいから	2.29	2.29	2.27	2.27
18	韓国のドラマを見てから	2.29	2.81	2.65	2.65
19	北朝鮮のことをニュースで聞いてから	2.58	2.28	2.35	2.36
20	韓国の映画をみてから	2.25	3.14	3.13	2.96
21	韓国人だから	1.26	2.16	1.73	1.92

得点が高いほど肯定的で、低いほど否定的であることを意味している。全体的に、大部分の数値が2.5から3.5の値を示しているが、例外に、特に低い平均値を示している項目としては、「6．先祖の言葉だから」「10．韓国語が話せないから差別されたことがある」「14．仕事上に必要」「21．韓国人だから」などがある。これらの項目については、大学や文化センターより、在日韓国人が大勢集まっている韓国学校のほうが高い。

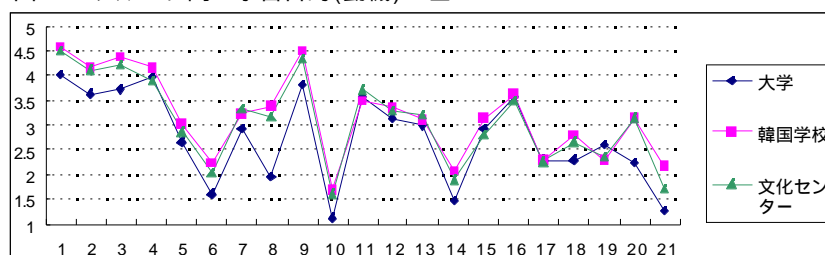
平均値が特に高い肯定的な項目としては、「1．韓国語に興味を持っているか

金 由那

ら」、「4. おもしろそうだから」などは、どの機関でも高くなっており、それぞれの機関には、韓国語に強い興味を持っている人たちが集まって韓国語学習をしていると考えられる。

次に、教育機関によって平均値に顕著な違いがみられる項目に注目すると、大学と比べて、韓国学校と文化センターの方が高い割合を示す項目は、「2. 韓国文化理解」「3. 韓国が好き」「9. 韓国旅行が楽しめる」「8. 友達・恋人などのコミュニケーションに必要なから」「20. 韓国の映画を見てから」である。これらから、趣味として韓国語を学習している一般社会人の目的意識がうかがえる。

図2 グループ間の学習目的(動機)の差



4.2.1 学習目的の国籍差

表2は、日本人学習者と在日韓国人学習者の学習目的に対する回答の差を示したものである。これによれば、在日韓国人学習者が有意的に高い項目は「5. 勉強に必要なから ($p < .01$)」「6. 先祖のことばだから ($p < .001$)」「10. 韓国語が話せないため差別されたことがあるから ($p < .001$)」「13. 文字がおもしろそうだから ($p < .01$)」「14. 仕事上に必要なから ($p < .05$)」「16. 英語以外の外国語が学びたいから ($p < .05$)」「17. 日本人の芸能人がしゃべるのを聞いてかっこいいと思い自分もそうなりたいから ($p < .05$)」「21. 韓国人だから ($p < .001$)」である。一方、日本人学習者のほうが高い項目は、「11. 日本に一番近い国だから ($p < .001$)」である。

表2 学習目的の国籍差

学習目的項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
日本人	4.43	4.03	4.19	4.07	2.80	1.50	3.16	3.00	4.34	1.34	3.72
在日韓国人	4.46	4.09	4.22	3.99	3.33	4.03	3.27	3.28	4.16	2.41	2.96
t 値	-.31	-.61	-.29	.74	-3.46	-22.7	-.82	-1.68	1.67	-9.28	5.38
有意差					**	***				***	***

学習目的項目	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
日本人	3.31	3.20	1.86	2.93	3.62	2.19	2.60	2.35	2.90	1.15
在日韓国人	3.21	2.75	2.18	3.19	3.28	2.52	2.79	2.40	3.14	4.49
t 値	-.31	-.61	-.29	.74	-3.46	-22.7	-.82	-1.68	1.67	-9.28
有意差		**	*		*	*				***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

4.3 韓国語・日本語・英語に対するイメージ

佐藤(1996)は「言語意識を知ること、そのことばを支えている社会的背景を知ることであり、そのためには公的意識だけでなく、それと共にたくさんの個的意識を重ね合わせて客体化することが必要である」と述べている。言語意識調査が必要な理由は、人々の言葉に対する意識や意見から言語使用者の意識と行動との関係を考えたり、ある意識を持っている人は特定の社会的属性を持ち、そのような人は特定の言語行動をとるということをある程度予測したりすることが可能になるからである。

言語意識調査でイメージ調査の方法がよく用いられるが、それは、特定の意識や意見、あるいは行動を支えている背景を解釈するのに役立つからである。このような、ある事柄や事象が担っている意味を確かめるために使われる心理学的手法としてSD法(Semantic Differential Method)がある。この手法は「良い/悪い」「きれいな/きたない」「明るい/暗い」のように、対立する形容詞を用いることで、その事象がどういう意味やイメージを担っているかを明らかにする方法である。

在日韓国人の韓国語に対するイメージがどのようなものであるのかを明らかに

金 由那

するために、次のようにことばのイメージ評価によく用いられる対義語となる評定語をペアにして、SD法により韓国語・日本語・英語に対するイメージの調査を行った。

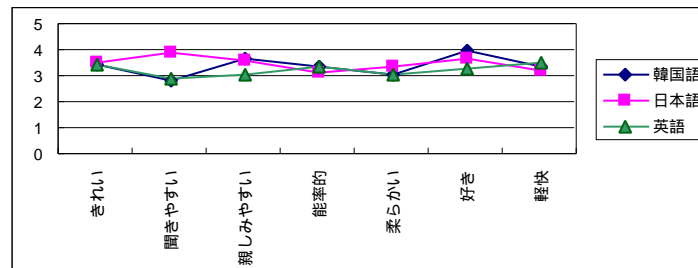
きれい.....	+2	+1	0	-1	-2.....	きたない
聞きやすい.....	+2	+1	0	-1	-2.....	聞きにくい
親しみやすい.....	+2	+1	0	-1	-2.....	親しみにくい
能率的.....	+2	+1	0	-1	-2.....	非能率的
柔らかい.....	+2	+1	0	-1	-2.....	堅い
好き.....	+2	+1	0	-1	-2.....	嫌い
軽快.....	+2	+1	0	-1	-2.....	重苦しい

その結果、表3と図3で表すとおりに、「きれい/きたない」項目は日本語、英語、韓国語の順に平均値が高く、韓国語を最も低く評価をしている。「聞きやすい/聞きにくい」は日本語が最も高く、英語、韓国語の順である。「親しみやすい/親しみにくい」は3つの言語の中で韓国語が最も高い値を示した。「能率的/非能率的」は、韓国語と英語とでは差がほとんどないが、日本語が低い。「柔らかい/堅い」は日本語が最も高く、韓国語と英語は同程度である。「好き/嫌い」は韓国語、日本語、英語の順である。「軽快/重苦しい」は英語が最も高く、次いで韓国語、日本語の順である。韓国語は「親しみやすい/親しみにくい」「能率的/非能率的」「好き/嫌い」の項目が他のことばに比べて高い。日本語は「きれい/きたない」「聞きやすい/聞きにくい」「柔らかい/堅い」の項目において高い値を示した。英語は「軽快/重苦しい」が最も高い値を示した。

表3 3つの言語とそのイメージの平均(標準偏差)

	韓国語平均(SD)	日本語平均(SD)	英語平均(SD)
きれい/きたない	3.47(.82)	3.55(.79)	3.50(.84)
聞きやすい/聞きにくい	2.86(.98)	3.91(.85)	2.89(1.04)
親しみやすい/親しみにくい	3.68(.99)	3.61(.94)	3.09(.93)
能率的/非能率的	3.41(.79)	3.18(.89)	3.39(.95)
柔らかい/堅い	3.07(.99)	3.42(.94)	3.04(.71)
好き/嫌い	4.02(.88)	3.73(.91)	3.29(.97)
軽快/重苦しい	3.36(.84)	3.20(.75)	3.53(.82)

図3 3つの言語のイメージの差



4.3.1 日本人と在日韓国人の3つの言語に対するイメージの相違

3つの言語に対するイメージにおける学習者の国籍差をt検定で分析した結果を表4に示した。日本語に対しては日本人と在日韓国人の間に顕著な差はなかった。英語に対しては「聞きやすい/聞きにくい」($p < .05$)の項目に有意な差があった。在日韓国人より、日本人のほうが英語を「聞きやすい」と判断していると考えられる。韓国語については「聞きやすい/聞きにくい」($p < .01$)と「親しみやすい/親しみにくい」($p < .01$)の項目に有意な差が見られた。日本人より在日韓国人のほうが、韓国語に対して「聞きやすい/聞きにくい」「親しみやすい/聞きにくい」のイメージを高く評価している。このことから、在日韓国人にとって、日本人と同じ状況で学習はしているが、韓国語に対するイメージは日本人より肯定的であり、彼らの心の中では、韓国語に対する愛着があることがうかがえる。

金 由那

表4 日本人学習者と在日韓国人学習者の言葉に対するイメージの差

イメージ	国籍	韓国語		日本語		英語	
		平均(SD)	t値	平均(SD)	t値	平均(SD)	t値
きれい	日本人	3.42(.80)	-1.59	.56(.79)	1.04	3.53(.81)	1.29
	在日韓国人	3.57(.89)		3.47(.81)		3.40(.93)	
聞きやすい	日本人	2.78(.95)	3.15**	3.91(.84)	0.25	2.95(1.02)	1.98*
	在日韓国人	3.14(1.02)		3.39(.92)		2.72(1.08)	
親しみやすい	日本人	3.59(.99)	-3.23**	3.58(.95)	-0.86	3.11(.90)	0.96
	在日韓国人	3.96(.96)		3.68(.95)		3.01(1.05)	
能率的	日本人	3.40(.78)	-0.37	3.15(.88)	-1.46	3.40(.93)	0.25
	在日韓国人	3.44(.82)		3.30(.95)		3.37(1.03)	
柔らかい	日本人	3.02(.99)	-1.79	3.41(.94)	-0.45	3.05(.70)	0.90
	在日韓国人	3.23(.99)		3.46(.94)		2.98(.79)	
好き	日本人	4.01(.86)	-0.29	3.74(.93)	0.42	3.32(.94)	1.45
	在日韓国人	4.04(.98)		3.69(.84)		3.16(1.07)	
軽快	日本人	3.32(.83)	-1.49	3.21(.76)	0.20	3.55(.75)	0.20
	在日韓国人	3.47(.89)		3.19(.76)		3.43(1.01)	

* $p < .05$, ** $p < .01$

4.3.2 外国語意識

韓国語学習者が、韓国語は外国語としてどの辺りに位置付けられると考えているかを調べるため、「外国語」という言葉を聞いたとき、思い浮かぶ順に言語名を三つまで、記入してもらった。

Q. あなたは「外国語」というと、何語を思い浮かべますか。浮かべる順に3つ書いてください。

() () ()

その結果が表5である。第1回答として思い浮かべる言語は英語(82%)であり、次に韓国語(9.9%)であった。第2回答として想起する外国語は韓国語(38.8%)、フランス語(20.1%)、中国語(18.3%)、英語(10.7%)、ドイツ語(7.1%)の順であった。第3回答として思い浮かべるのは中国語(31.0%)、フランス語(22.5%)、ドイツ語(14.4%)、韓国語(13.1%)、スペイン語(4.3%)の順である。以上の3回答を総合すると、英語(99.3%)、韓国語(61.8%)、中国語(50.0%)、フランス語(44.1%)……の順となり、韓国語が2番目に位置づけられている。

この結果を、金(2003)による韓国で韓国語を学習している日本人とした外国語の意識調査と比べると、在韓日本人にとって韓国語は外国語として5番目に思い浮かべる言語であった。韓国で滞在している日本人にとって、日常生活で使われる韓国語が外国語として認識されないためであろう。今回の調査で、日本での韓国語学習者は外国語として高く韓国語を意識していることが分かった。

これと関連して、日本で国立国語研究所(1984)が学習者ではない日本人を対象に行った調査によると、結果は、英語(94.9%)、フランス語(74.8%)、ドイツ語(66.3%)、中国語(20.5%)、ロシア語(6.0%).....の順であり、韓国語は0.8%に過ぎなかった。両調査の実施時期にかなりの開きがあるため単純に比較することはできないが、今回の調査結果、つまり韓国語学習者にとっての韓国語の想起順位は英語に次ぐ順位であった。延べの結果を日本人と在日韓国人とで比較すると、韓国語を外国語として想起する率は、日本人は63.9%、在日韓国人は52.6%であった。この結果は、在日韓国人のほうが日本人より韓国語を外国語としての低く意識していることを示すが、それは在日韓国人が韓国語を母国語と意識しているためであると考えられる。

表5 外国語として思い浮かべる言語

		英語	韓国語	ドイツ語	中国語	イタリア語	フランス語	ポルトガル語	日本語	スペイン語	アラビア語	ロシア語	その他
1回答	N %	351 86.7	40 9.9		3 0.7		8 1.5		2 0.5	3 0.5			
2回答	N %	42 10.7	153 38.8	28 7.1	72 18.3	5 1.3	79 20.1	2 0.5	8 2.0	2 0.5	2 0.5		1 0.3
3回答	N %	7 1.9	49 13.1	54 14.4	116 31.0	22 5.9	84 22.5	8 2.1	6 1.6	16 4.3	4 1.1	3 0.8	5 1.4
延べ	%	99.3	61.8	21.5	50.0	7.2	44.1	2.6	4.1	5.3	1.6	0.8	1.7

4.4 韓国語学習に対する意識

4.4.1 韓国語学習の目標

現在学習している学習者の学習目標を調べるため、以下のような質問をした。

金 由那

Q. あなたはどのくらいまで韓国語を勉強するつもりですか、韓国語の学習目標を一つ選んでください。

簡単な字を読めるくらい あいさつ程度できるほど
旅行などに必要なきまりきった表現が使える程度 日常会話ができる程度
どんなときでも不自由なく話せる程度 母語と同じように、完璧に話せる。

その結果は、「簡単な字を読めるくらい」(7.1%)、「あいさつ程度できるほど」(2.0%)、「旅行などに必要なきまりきった表現が使える程度」(7.1%)、「日常会話ができる程度」(42.9%)、「どんなときでも不自由なく話せる程度」(20.4%)、「母語と同じように、完璧に話せる」(18.4%)であった。今回調査した韓国語学習者の8割以上が、日常会話ができる程度以上の目標を持っているということは、韓国語に対する情熱が非常に高いことが読み取れる。学習目標において、在日韓国人と日本人との有意な差は見られなかった。今回のアンケート調査時期がワールドカップ日韓共同開催からあまり時間が経過していない時期に行われたことや、韓国ドラマの人気の影響で韓国語学習に対する関心が高まっているが、それも一過性のブームに終わるのではないかという観測があることなどを勘案しても、今回の調査結果が示すように高い学習目標を持っていることから判断すると、日本での韓国語の学習は今後も根を下ろしていくものと思われる。

4.4.2 韓国語の学習経験に対する感想

学習者の学習経験後の感じたことを調べるために、以下のような質問をした。

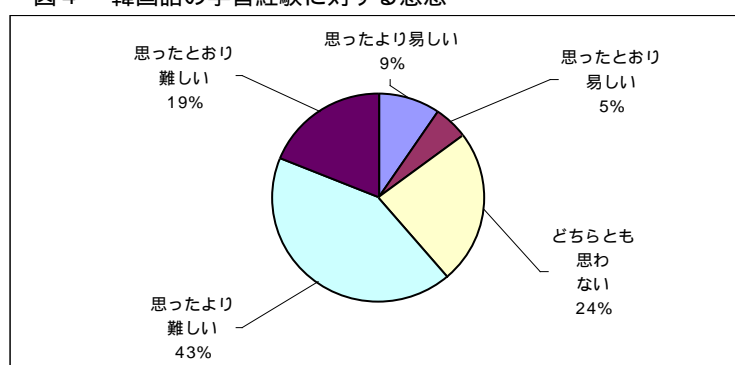
Q. あなたは韓国語を勉強してみてどう思っていますか？

思ったよりやさしい 思ったとおりやさしい どちらとも
おもわない 思ったより難しい 思ったとおり難しい

その結果、「思ったより易しい」(9.4%)、「思ったとおり易しい」(5.2%)、「どちらともおもわない」(24.0%)、「思ったより難しい」(42.7%)、「思ったとおり難し

い」(18.8%)であった。中間的な答を除くと、易しいと感じた者が14.6%、難しいと感じた者が61.5%であった。学習経験に対する感想において、在日韓国人と日本人との有意な差は見られなかった。

図4 韓国語の学習経験に対する感想



4.4.3 韓国語学習の難しい点

上述のように、韓国語を学習した結果、6割以上の学習者が難しいと感じているのであるが、どの点が難しいと感じたかを自由記述式の形で書いてもらった。その際、細かい表現の違いはあるけれども同義と考えられるものは、稿者の判断で1つのカテゴリーにまとめた。各カテゴリーの回答数と比率は表6のとおりである。

学习上難しい点として挙げられたものの中で最も多いのは、「発音」(168名)であった。その理由は「平音、激音、濃音の区別ができない」「舌が回らない」などがあつた。次いで回答の多かったのは「聞き取り」(64名)である。その理由としては「日本語にない母音」「似た発音が多い」「音の変化」「同音異義語」などが挙げられている。3番目の「文法」(55名)の理由としては「変則活用」「間接語法」「助詞」「時制」「口語文法」「省略」などが挙げられている。また「パッチム」と「単語」が難しいと回答した者がほぼ同数くらいであつた(各35名、34名)。単語は字を読めても意味がわからないということと、単語暗記が難しいことをあげている。「リエゾン」(31名)があるため聞き取りが難しいという回答も目立つた。

これに関連して、金(2003)は韓国で韓国語を勉強している日本人を対象として

金 由那

同様の調査を行っているが、それによると「発音」(70%)と回答した者が最も多く、次いで「聞き取り」「敬語」「語彙」の順となっている。日本語話者が韓国語を学習する場合、どこで学習するかに関係なく「発音」が最も難しいと感じているようである。

表6 学習時、難しい点

	難しい点	人数	%
1	発音(平音、激音、濃音)	168	38.7
2	聞き取り(母音の区別など)	64	14.7
3	文法(変則、間接話法、語法、過去、現在、未来の時制)	55	12.7
4	パッチム	35	8.1
5	単語暗記	34	7.8
6	リエゾンがあって読めても聞き取れない	31	7.1
7	読み方	23	5.3
8	書き取り	18	4.1
9	漢字語(日韓の意味の違い、漢字不使用、同音異義語)	13	3.0
10	その他	13	3.0
11	韓国語特有の言い回し	11	2.5
12	文字の複雑さ	10	2.3
13	会話の機会	10	2.3
14	敬語の使い方	7	1.6

4.5 韓国に対する認知度・関心度・興味

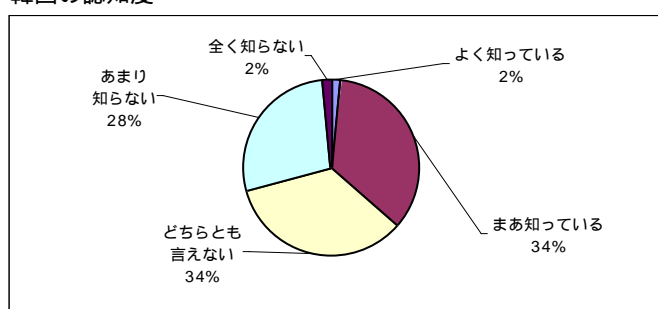
4.5.1 学習者の韓国に対する認知度

学習者の韓国に対しどのくらい知っているか、その認知度を調べるため、以下のような質問をした。

Q. あなたは韓国のことをどのくらい知っていますか。 よく知っている .まあ知っている どちらともいえない あまり知らない 全く知らない

その結果、「よく知っている」(1.9%)、「まあ知っている」(34.5%)、「どちらともいえない」(34.2%)、「あまり知らない」(27.8%)、「全く知らない」(1.6%)である。つまり、約35%の学習者が韓国について知っていると感じており、約30%が知らないと考えている。

図5 韓国の認知度



4.5.2 韓国に対する関心度

韓国に対してどのくらい関心を持っているか以下のような質問をした。

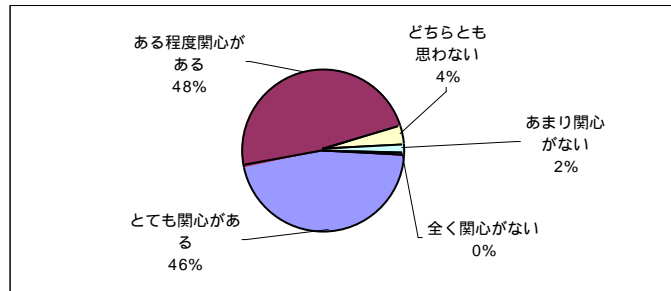
Q. あなたは韓国についてどの程度関心がありますか。

とても関心がある	ある程度関心がある	どちらともいえない
あまり関心がない	全く関心がない	

その結果は、「とても関心がある」(45.5%)、「ある程度関心がある」(48.4%)、「どちらともいえない」(3.7%)、「あまり関心がない」(2.1%)、「全く関心がない」(0.3%)の順であった。予想通りの結果であるが、韓国について9割近くの学習者が関心を持っている。

金 由那

図6 韓国に対する関心度



4.5.3 認知度および関心度との国籍との相関

認知と興味に関して日本人と在日韓国人の間に差があるか検討するために、認知、関心の平均の差をt検定によって比較した(表7)。その結果、国籍の間に有意な差は見られなかった。日本人も在日韓国人も韓国に対して同じ程度知っているし、同じ程度の関心を持っていることがわかった。

表7 認知と興味の日本人と在日韓国人の検定結果

国籍	認知度			関心度		
	N	平均(SD)	t値	N	平均(SD)	t値
日本人	271	2.94(.89)	0.57	282	1.63(.70)	0.26
在日韓国人	93	2.88(.82)		92	1.65(.62)	

4.5.4 韓国に興味を持っている分野

学習者が言語以外に、韓国のどういう分野に興味を持っているかを調べるため、次のように質問し、複数回答を可とした。

Q. 韓国に興味を持っている分野はなんですか？(複数回答可)

食べ物	民族衣装	歴史	北朝鮮	音楽
ファッション	政治	経済	観光地	韓国人の見方・考え方
ドラマ・映画・美術・文学	教育や技術	その他		

その結果、「食べ物」(82.2%)に対して圧倒的に多くの学習者が関心を寄せてお

り、次いで、「韓国人の見方、考え方」(47.7%)、「歴史」(40.0%)、「ドラマ・映画」(38.9%)、「観光地」(37.5%)、「音楽」(34.7%)、「北朝鮮」(25.2%)などの順であった。韓国語学習者は、食文化、ものの考え方や価値観、行動様式、生活様式、人間関係のルールなど、韓国語の背景文化に対しても多様な興味を持っているので、韓国語教育においても、こうした文化的側面を積極的に導入することにより、韓国文化に対する好奇心と関心を一層高め、学習動機を刺激する効果が期待できるのではないかと考えられるのである。

4.6 韓国人との交際において気を使う点

韓国語の学習者は韓国人と接する機会が非学習者より多いと考えられる。彼らが韓国人と付き合う時どのような点に気を使っているか、自由記述式で回答を求めた。その結果、無回答が最も多かったが、回答した中では「気を使ってない、意識せずに日本人と同じように接する」(72名)というものが多かった。気を使っていると回答したものについては、稿者の判断でいくつかのカテゴリーにまとめた。その中で最も回答の多かったのは「過去の歴史を話題にしない」「相手が反日感情を持っているかとか、過去のことを話題にしない」、「政治的な問題、北朝鮮の問題に触れない、教科書問題」など歴史的・政治的・話題回避のカテゴリー(48名)であった。次いで、「目上の人に敬語を使う」「韓国が儒教の国であることを意識し、目上か目下かを意識しながら言葉遣いに注意する」などの待遇表現のカテゴリー(37名)、「ものごとをはっきり言う」「曖昧な表現はさける」「自分の意志をはっきり言う」「大きい声で積極的に話す」などの意思表示の明確さのカテゴリー(35名)、「文化の差を理解」「日本人と韓国人の生活様式などの違いを理解しながら付き合う」など異文化理解のカテゴリー(28名)、礼儀のカテゴリー(16名)などの順であった。その他に「相手の目を見て話す」「すみません などの挨拶を少なくする」「家族愛が強い点に気を使う」「約束などの時間を再確認をする」などがあつた。

一二三(2004)は、外国人との付き合いにおいて、そうした意識的配慮の調整を学習することが、接触場面での外国人との会話を成立させるための最低限の基盤を確保し、かつ、その基盤を友好的な関係へ発展させるために重要であると指摘している。

金 由那

5 . おわりに

以上、韓国語学習者に対するアンケート調査の結果に基づき、日本における外国語としての韓国語の教育現況と韓国語学習者の意識の実態について考察した。その結果、学習機関の特徴により、大学、韓国学校、文化センターの間で学習者の学習目的に動機に幾分相違が見られることがわかった。学習動機の全体的な平均値は韓国学校が最も高く、次いで文化センター、大学の順であった。一般社会人が多く学んでいる「韓国学校」と「文化センター」の場合、韓国文化やコミュニケーションと関連する「韓国旅行」「映画」「コミュニケーション」「文化理解」などの項目で高い平均値を示した。反面、大学の場合は「英語以外の外国語を学びたい」「北朝鮮のニュースを聞いて」などの動機が多かった。国籍間の比較では、日本人より在日韓国人のほうが全体的に動機が高かった。学習動機のうち「韓国人だから」「先祖のことだから」の項目にたいして在日韓国人が高い数値を示していることから、彼らが韓国語学習においてアイデンティティの問題を強く意識していることがわかった。

ことばのイメージ調査において、回答者は韓国語を日本語や英語と比べて、最も「聞きにくい」言語であると評価しているが、「親しみやすい」「能率的」「好き」というイメージを他の言語に比べて高く持っているという結果も得られた。また、外国語として思い浮かぶ言語として、韓国語は英語の次いで高く順位付けられていることもわかった。

韓国語の学習に対する意識(学習目標、学習経験)と韓国に対する興味・認知については国籍の差は見られなかった。このことから、韓国語学習において、日本人、在日韓国人ともに置かれている学習環境に大きな差はないということがわかる。

本稿の調査においては多様な教育機関に学ぶ韓国語学習者を調査対象としたため、特定の民族や調査対象者(学生、一般人など)を念頭においた質問項目を設定しなかった。調査対象者の属性によって、韓国語や韓国文化に対するイメージは大きく異なることが予測されるので、今後は調査対象を特化して質問項目を設定し、調査・分析を進めていく必要がある。また、韓国語を学習していない日本人と在日韓国人に対しても調査を行い、それによって学習者と非学習者のイメージの差を比較検討することを今後の課題としたい。

参考文献

- Fishman, J. A. (1980), Bilingualism and biculturalism an individual and as societal phenomena, *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 1, 3-15.
- Gal, S. (1972) *Language Shift: Social Determinants of Linguistic Change in Bilingual Austria*. New York: Academic Press.
- 馬越徹 (1989) 「在日韓国・朝鮮人子女の教育における「民族性」保持に関する一考察」、『名古屋大学教育学部紀要』36
- 大江孝男 (1991) 「日本における韓国語(朝鮮語)教育」『アジア・アフリカ言語文化研究』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), 42
- 生越直樹 (1983) 「在日韓国人の言語生活」『言語生活』, 376, 筑摩書房
- 国立国語研究所 (1984) 『言語生活における日独比較』(国立国語研究所報告80), 三省堂
- 佐藤和之 (1996) 「現代人の方言意識」『方言の現在』, 明治書院
- 渋谷勝巳・金善美 (1999) 「在日コリアン一世の日本語中間言語における動詞文」『第2言語習得としての日本語の習得に関する総合研究』(科学研究費補助金研究成果報告書)
- 一二三朋子 (2004) 「意識的配慮の共生的学習に関する因果モデルの検討」『教育心理学研究』(日本教育心理学会), 52 2
- 藤永壯 (2003) 「日本の高等教育における朝鮮語教育の歴史と現状」『大阪産業大学人間環境論集』(大阪産業大学学会), 2
- 宮島達夫 (1993) 「ことばの経済学」『言語』(大修館書店), 22 12
- 金善美 (1998) 「在日コリアン一世の日本語」『日本学報』(大阪大学日本学研究室), 17
- 金静子 (1994) 「
」『二重言語学会誌』(), 11
- 金貞淑 (1988) 「関西地域の大学における朝鮮語教育の実態に関する一考察」『朝鮮語教育研究』(近畿大学教育研究所), 2
- 金由那 (2003) 「在韓日本人の言語意識 韓国語に対する意識を中心に」『多

- 元文化』(名古屋大学国際言語文化研究科), 3
- 任栄哲(1993) 『在日・在米韓国人および韓国人の言語生活の実態』くろしお出版
- 呉英元(2001) 「日本における韓国語教育の現状と課題」『二松学舎大学論集』, 44
- 黄鎮杰(1994) 「在日韓国人の言語行動_コード切り替えに見られた言語体系と言語運用」『日本学報』(大阪大学日本学研究室), 17